PR: ネット検索で www.kanang . Jp/ をご覧下さい

PURE/THAI 発

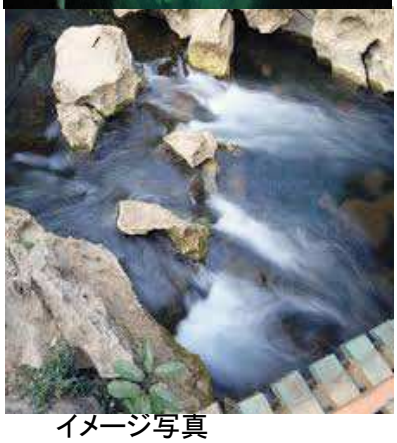
緊急増刊 号 2018年 7月 7日 発行 発行者 寛庵 泰

EXCITING/Thailand News

Relaxation/Place（ くつろぎのいおり ）
422/33 Soi 7 Chiangmailand T.Changklan A.Muang Chiang Mai ThaiLand〒50100 Mob :081-205-0689 e-mail : h2.kanang@gmail.com

洞窟内の少年達頑張れ！

イメージ写真



イメージ写真

雨季に入った北タイ。6月23日にチェンライ県メーサーイ郡にあるタムルアン洞窟に入って行方不明になった13人の少年達が7月2日になって全員無事に避難している事が分かった事は、周知の通りです。県はもとより、国軍・外国からの救援団体も参加して、懸命の救助作戦が検討され、実施されていますが、雨季である事から、幾ら排水しても一行に水量が減らないジレンマの中で、泳ぎの出来ない子供たちに、潜水までやらせようと云う提案が有力だというニュースに驚愕しています。

洞窟13人全員無事発見
タイ不明10日目

7月3日の新聞記事

右上図は、石灰岩の山景ですが、現場もこのような山の下にある鍾乳洞です。北タイは、このような山が多く、鍾乳洞も多くあります。毎週行っている、サンカムペーン温泉の近くにもタムロッドという鍾乳洞があったり、チェンダオにも、チェンダオ山の麓に入り口のある大きな鍾乳洞があります。
恐らく、未発見の鍾乳洞は、数知れなくあるものと思っています。

鍾乳洞と地下水との関係は切っても切れない関係で、水の力で鍾乳洞が作られているといっても過言ではないでしょう。

今回の鍾乳洞は、奥行きが5Kmとの事で、（おそらくは、最深部の高台になっている所に避難していたと思われます）不幸中の幸いで、水と空気、夏の気温で命を繋ぐ事が出来たとも云われています。それにしても、10日近くも水だけで生き永らえる生命力と、少年達の若き指導者（25歳）のリーダーシップには感心仕切りです。

少年たちにインタビューした内容から、「時々女の子の歌う声や笑い声、犬の鳴き声などが聞こえた」と云うのがあったと思います。…と、云う事は、避難場所からさほど遠くない所に、山岳民族の村があると云う事です。報道されていませんが、恐らくGPS等で、現在地は特定されているでしょうから、この場所に一番近い山岳民族村に別動部隊を設け、『穴掘り作戦』に切り替えるのが最良の選択肢ではないかと思います。

イメージ写真

掘削技術・トンネル技術では世界最高水準にある日本の土木・建設業の腕の見せ処です。日本のODAも参加して、排水作業に尽力してくれていますが、潜水救出などという余りにもリスクの高い選択をするよりも、救出口をぽっかりと空ける『穴掘り作戦』に切り替えてもらいたいものだと思います。

少年達の無事帰還を心より祈っています。